漢詩を創作したり，体験したことや感じたことを文語で書いたりする活動。

エ　古典の作品について，その内容の解釈を踏まえて朗読する活動。

オ　古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ，その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。

カ　古典の言葉を現代の言葉と比較し，その変遷について社会的背景と関連付けながら古典などを読み，分かったことや考えたことを短い論文などにまとめる活動。

キ　往来物や漢文の名句・名言などを読み，社会生活に役立つ知識の文例を集め，それらの現代における意義や価値などについて随筆などにまとめる活動。

3　内容の取扱い

(1) 内容の〔知識及び技能〕に関する指導については，次の事項に配慮するものとする。

ア　(2)のイの指導については，〔思考力，判断力，表現力等〕の「A読むこと」の指導に即して行い，必要に応じてある程度まとまった学習もできるようにすること。

(2) 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A読むこと」に関する指導については，次の事項に配慮するものとする。

ア　古文及び漢文の両方を取り上げるものとし，一方に偏らないようにすること。

イ　古典を読み深めるため，音読，朗読，暗唱などを取り入れること。

ウ　必要に応じて，古典の変遷を扱うこと。

(3) 教材については，次の事項に留意するものとする。

ア　内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A読むこと」の教材は，古典としての古文及び漢文とし，日本漢文を含めるとともに，論理的に考える力を伸ばすよう，古典における論理的な文章を取り上げること。また，必要に応じて，近代以降の文語文や漢詩文，古典についての評論文などを用いることができること。

イ　内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A読むこと」の(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

ウ　教材は，言語文化の変遷について理解を深める学習に資するよう，文章の種類，長短や難易などに配慮して適当な部分を取り上げること。

第3款　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

1　指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

(2) 「論理国語」，「文学国語」，「国語表現」及び「古典探究」の各科目については，原則として，「現代の国語」及び「言語文化」を履修した後に履修させること。

(3) 各科目の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については，〔思考力，判断力，表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とすること。

(4) 「現代の国語」及び「言語文化」の指導については，中学校国語科との関連を十分に考慮すること。

(5) 言語能力の向上を図る観点から，外国語科など他教科等との関連を積極的に図り，指導の効果を高めるようにすること。

(6) 障害のある生徒などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。

2　内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 各科目の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については，日常の言語活動を振り返ることなどを通して，生徒が，実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。

(2) 生徒の読書意欲を喚起し，読書の幅を一層広げ，読書の習慣を養うとともに，文字・活字文化に対する理解が深まるようにすること。

(3) 生徒がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして，指導の効果を高めるよう工夫すること。

(4) 学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。

3　教材については，各科目の3に示す事項のほか，次の事項に留意するものとする。

(1) 教材は，各科目の内容の〔知識及び技能〕及び〔思考力，判断力，表現力等〕に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度を育成す